

■稲穂中学校の実践

(1) 研究内容

人権に関する講演会(全校道徳)

『人と犬～命の絆～ セラピードッグの奇跡』 7月10日(水)5、6校時

国際セラピードッグ協会代表、ブルースシンガー、名誉社会福祉学博士である大木トオル氏による講演とセラピードッグトレーナーによる実演

(2) 学習活動を通して育てたい力

○命の大切さ

- ・セラピードッグによる高齢者や障がい者への動物介在療法とその実例を知る
- ・動物愛護(管理)センターでの捨て犬や捨て猫たちの実態、さらに、被災犬たちの実態を知る
- ・3・11被災地の仮設住宅での独居老人らの現状を考える
- ・大木氏自身のいじめ体験による「反・いじめ学習」を学ぶ
- ・幼少期の過酷ないじめの経験を知る
- ・アメリカでの東洋人ブルースシンガーであるが故の差別の経験を知る
- ・セラピードッグの様々な活動(有用感)を知る
- ・捨て犬、被災犬がセラピードッグとして再生されていくことを考える



○感動伝達

- ・名犬チロリとの出会い～日本初のセラピードッグ誕生～数々の奇跡～チロリとの別れ

○自尊感情、自己肯定感

(3) 実践の内容

【実践①】人権教育・命に関わる教育

○ねらい

- ・今年度、学校全体で取り組んできた人権教育、命に関わる教育のメイン・イベントとなる講演

○今年度の取り組み内容

- ・いじめ撲滅道徳(学校独自のいじめ調査と連動した各学年毎の道徳)
- ・大木氏講演に関する資料の提示(約1か月前からのプリント学習5回)
- ・「命」に関わる学習(技術・家庭、保健体育、道徳)
- ・手稲区保健福祉部健康子ども課事業「赤ちゃんはすごい」による乳児・幼児との直接体験や妊娠出産、性、薬物、喫煙、飲酒等に関わる講演
- ・手稲消防署による救命救急講習 読み物・DVDによる道徳教材など



○学習内容

- ・セラピードッグの活動や動物介在療法、高齢者や障がい者が様々な障がいを克服するセラピードッグの訓練を知る
- ・動物管理センターの実態を知る
- ・被災地での孤立死の問題 その救済のためのセラピードッグの活躍を知る
- ・捨て犬、被災犬からセラピードッグの誕生を学ぶ
- ・自身の「いじめ」体験から学ぶ
- ・米国での差別の経験から学ぶ



(4) 成果と課題

○成果

- ・生徒、保護者、地域住民、学校評議員、ちらしやポスターによる参加者、教職員それぞれから高い評価を得た(アンケートおよび個々からの聴取)
- ・なかなか札幌で聴ける講演ではなく、セラピードッグによる実演も得難いものであった
- ・学習のねらいは十分達成された
- ・23年度手話シンガー水戸真奈美氏講演、24年度いなむら一志氏平和教育ミニライブ、そして大木氏の講演と3ヵ年の人権平和教育のそれぞれの年の柱ができた



○課題

- ・これまでの取組を今後の教育活動にどう位置付け、どう継続していくかが課題である
- ・生徒自身による主体的な取組についても考えていく
- ・地域との更なる交流の在り方についても見直していく
- ・「自尊感情」「自己肯定感」を軸とした道徳教育年間計画を見直していく
- ・特別支援学級及び発達障がい等の生徒への講演内容、時間配分の事前指導についても考えていく必要がある
- ・反省アンケートを基にした、今後の「命」の教育の展開例の作成を目指す